

相次ぐ長老の無念の死を悼む

巨星相次いで墜つ

正月早々、藤田整さん（大阪市立大学名誉教授）と金子碧さん（元自治会長）の相次ぐ訃報を聞いた私の実感です。

自治会館をとり戻す闘いの道半ばで角山栄さん（74年）、大久保博之さん（75年）に続き、藤田さん、金子さんまでも失ってしまったことは、誠に痛恨の極みであるとともに申し訳ない気持ちで一杯です。

この四人の長老は自治会館をとり戻す運動の当初から、お亡くなりになる最後の瞬間まで私達を力強く支え励まして下さいました。



藤田整さん 50数年前、共有財産である自治会館をどうすれば法的にも安定させ、安心して地域の子孫に残せるかを地域の先輩たちが模



金子碧さん 索していた時期西村駒吉氏（財団初代理事長）が相談した地元



角山栄さん 反省の色が見られない」と憤慨しておられました。不当にも「被告」の汚名を着せられたまま旅立った金子さんとご遺族の無念を思うと何



大久保博之さん としてもとり戻すまで頑張る、ウソついたら勝ちの町にしてはいけない」気持ちが一層強くこみ上げ

在住の経済学者藤田敬三氏（元大阪経済大学学長）は藤田整さんの父君です。まだ若い大学教員であった藤田整さんは財団設立直後に自治会役員となり、自動的に財団理事も務められました。こうした経緯をお聞きするため、厚かましくも先生のお宅を何度も訪問しました。井上弁護士と一緒に邪魔したこともありました。

大久保さん（元堺市助役）は、会館を財団名義とせず堺市の名義にしておけばあんな男に乗り取られずに済んだかもしれない」と悔やんでおられました。

角山さん（元和歌山大学学長、堺市博物館館長）は、紙の上だけで財団名義であっても共有財産に変わりはない」と喝破されました。

金子さんは、上田氏の法廷証言を聞き、全く

てきました。藤田さんは、とり戻す会が発足し弁護士を探している頃に、知り合いの弁護士さんを紹介してくれ大阪の事務所まで二回も一緒に行ってくださいました。

この四人の長老は、いふならば向ヶ丘の知性と良心を代表する誇るべき存在であり、とり戻す運動の象徴的な存在でした。夜空に輝き、私たちの行方を教えてくれる巨きな星でした。

必ず自治会館をとり戻し、四人の長老をはじめすでにお亡くなりになった地域の諸先輩方の無念を晴らす報告が出来るその日まで、最後まで頑張りぬくことを誓います。

どうか安らかにお眠りください。

山下隆也 自治会館PT代表



自治会創立50周年にできた「向ヶ丘町物語故者供養塔」